

自己評価表(令和7年度版)

学校法人聖テレジア学園／教員用

実施日 令和7年 12月

幼稚園名 小さき花幼稚園

氏名 正職員

次ページからの自己評価の着眼点について

I 保育の計画性

保育の計画性では、教育理念やキリスト教の理念をきちんと理解したうえで保育の計画をたてているか、また子どもの実態や変化にあわせて随時見直しをおこなっているかを評価します。具体的には「園の教育理念・教育方針の理解」「幼稚園教育要領の理解」「教育課程の編成」「指導計画の作成」「保育と計画の評価・反省」「環境の構成」が評価の軸となります。

II 保育の在り方、幼児への対応

子どもたちに接するとき、また指導をおこなうとき等の教師のあるべき姿や教師の対応の在り方を評価します。具体的な評価軸は「健康と安全への配慮」「指導とのかかわり」「幼児のみとりと理解」「保育者同士の協力・連携」です。

III 教師としての資質や能力・良識・適正

この項目では、教師の専門性や学校法人または幼稚園という組織の一員であることの自覚を評価します。具体的には「専門家としての能力・良識・義務」「保育の楽しみ、喜び」「まわりを感じとれる感性、アンテナ」「組織の一員としての在り方」が評価軸となります。

IV 保護者への対応

保護者との関わりあいでも問われるのが、いかにして教師は保護者との信頼関係を築くかです。幼稚園に通う子どもたちの家庭環境は様々ですが、そうしたなかで保護者と信頼関係が築けていると日頃の保育もスムーズになります。ここでの評価軸は「情報の発信と受信」「協力と支援」「守秘義務の遵守」「対応上のマナー、良識」「クレームへの対処の仕方」です。

V 地域の自然や社会とのかかわり

近年の幼稚園は在園児への保育に限ることなく、子育て全般に関するサポート(支援)が求められています。そうしたことを背景に、ここでは幼稚園と地域、一人ひとりの教師と地域との関わりあい evaluates。具体的な評価軸は、「地域の自然、人々とのかかわり」「小学校との連携」「地域への開放と支援」です。

VI 研修と研究

教師は保育の質を維持し、また向上させるために常に自己研鑽し、保育内容の研究を続けなければなりません。この項目では日頃の研修と研究のありかたを評価します。具体的な評価軸は、「研修・研究への意欲・態度」「教師としての専門性に関する研修・研究」「道具・教材に関する研修・研究」「園内の環境に関する研修・研究」「今日的課題に関する研修・研究」です。

I 保育の計画性	＜評価の基準＞			
	A. 十分達成されている			
評価内容	B. 達成されている			
	C. 取組んだが成果が十分でない			
	D. 取組みが不十分である			
	自己評価(該当欄に○印を記入)			
	A	B	C	D
①園の創立理念や建学の精神にあるキリスト教の理念を理解している。また、教育理念や教育方針を理解し、共感している	1	6		
②幼稚園教育要領を理解している		5	2	
③園の教育課程を理解して保育の計画をたて、必要に応じて見直しをおこなっている		5	1	1
④長期の指導計画は適宜見直し、子どもの実態や状況の変化に速やかに対応できるようにしている		5	1	1
⑤短期の指導計画は子どもの実態にあわせて自由に変更できるような順応性のあるものになっている	1	4	1	1
⑥自分の保育の内容や保育計画の評価・反省は、観点を定めておこなうようにしている		4	3	
⑦子どもの発達や生活を見通して、安全で清潔感のある環境構成をしている	1	6		
⑧子どもの発想を柔軟に取り入れて保育室の装飾や展示を考えている	2	4	1	
⑨季節の変化に応じた環境構成をしている	1	5		
II 保育の在り方、幼児への対応	＜評価の基準＞			
	A. 十分達成されている			
評価内容	B. 達成されている			
	C. 取組んだが成果が十分でない			
	D. 取組みが不十分である			
	自己評価(該当欄に○印を記入)			
	A	B	C	D
①登園時には子どもの様子をよく観察して、体調が悪くないかどうかを確かめている	2	5		
②事故やけがが発生した際は保護者に連絡し、また医師に見てもらう等の適切な処置を行っている	6	1		
③子どもにあわせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている	1	5	1	
④教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	1	6		
⑤子ども一人ひとりのよさを認め、子どもの話をよく聞くようにしている	1	5	1	
⑥子どもが自ら考え、工夫できるような見守り方をしている。必要に応じ、適切な援助をしている		7		
⑦子どもの年齢や発達、個性や性格、特徴を踏まえ、また家庭環境、生育歴等を考慮した関わり方をしている	1	4	1	1
⑧一人ひとりの子どもをよく観察すると同時に、周囲にも目を配るようにしている	1	3	3	
⑨子どもを自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている	2	3	2	
⑩子どものことについて常に教師同士で話しあい、クラス・学年を超えて情報を共有している	4	2	1	

Ⅲ 教師としての資質や能力・良識・適正	＜評価の基準＞			
	A. 十分達成されている B. 達成されている C. 取組んだが成果が十分でない D. 取組みが不十分である			
評価内容	自己評価(該当欄に○印を記入)			
	A	B	C	D
①現在保有している専門知識・技能に加え、より高度な専門知識・技能を身につけようと研修している		2	5	
②保育者としての誇りと自覚を持ち、園には自分自身の私生活を持ち込まない	2	5		
③個人情報の保護に努め、重要書類の取扱いに十分注意し、職務上知り得た情報などの秘密を守っている	6	1		
④子どものささやかな成長が理解できて、それを素直に喜ぶことができる	5	2		
⑤子どもと一緒に苦しんだり考えたりすることができる	2	4	1	
⑥子ども一人ひとりの成長と幸せのために、日々神様に祈っている	3	4		
⑦子どもや教育に関する情報を捉えようと常に心がけている		3	4	
⑧自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じることができる	3	4		
⑨園内では教職員全員で一つのチームであることを認識し、偏った人間関係を作らない	2	3	2	
⑩教職員や園の批判を軽はずみにしない。園に関することはみだりに、また不正確なまま他へ話さない	3	4		
Ⅳ 保護者への対応	＜評価の基準＞			
	A. 十分達成されている B. 達成されている C. 取組んだが成果が十分でない D. 取組みが不十分である			
評価内容	自己評価(該当欄に○印を記入)			
	A	B	C	D
①保護者に対して子どもの様子、保育のポイント、自分の考え方をクラス便りなどで伝えている	2	2	3	
②保護者に対して緊急時の連絡手段をもっている	4	3		
③保護者の協力が必要な場合は園長と協議し、具体的な協力のあり方について保護者と話し合える	2	5		
④子どもの情報や保護者、家族の情報は口外していない	7			
⑤正しい日本語を意識し、丁寧な言葉や敬語を用いて語りかけ、相手の話はしっかりと傾聴する	1	4	1	1
⑥保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性等によって区別や差別をしない	2	5		
⑦保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談をしている	7			

令和7年度自己評価 まとめ

I 保育の計画性

総合評価	自己評価の結果と今後の課題及び改善策
B	全ての項目に対して「B」評価が出ている。職員の意識も高まっているように感じられるが、反面で、③④⑤の項目に於いて、「D」の評価を出している者がいることは、子どもの実態に沿った保育が出来ていない・改善する必要があるということになる。 全職員が同じ方向に向けて、また、互いに向上心をもって計画を立て、保育に当たれるようになることが課題といえる。

II 保育の在り方、幼児への対応

総合評価	自己評価の結果と今後の課題及び改善策
B	概ね「A」・「B」の評価となっており、子どもとの関わり・対応に関しては良い評価となっている。人間形成の非常に重要な時期に関わりを持っていることを常に念頭に置き、一人ひとりと向き合っ保育をしていけるよう、引き続き取り組んでいきたい。

III 教師としての資質や能力・良識・適正

総合評価	自己評価の結果と今後の課題及び改善策
B	教育の場であることを踏まえ、常に人的環境として幼児に接していることを忘れず、良識の範囲で保育教育活動を行うことが出来た。 また、子どもの成長を見守り、できたことや育ちを誉め、子どもと共に喜ぶ体験を繰り返すことで、子ども達の豊かな感性を伸ばしていけるよう引き続き努力していきたい。

IV 保護者への対応

総合評価	自己評価の結果と今後の課題及び改善策
A	園からの情報は、ホームページ・メール配信・手紙類で随時発信しているが、今年度は動画配信を加えた。この事により、園児の動く情報が保護者に伝わり易くなり、非常に好感触であった。 保護者との関りの中で知りえた情報は、守秘義務として秘密を保持することも徹底できた。

V 地域の自然や社会とのかかわり

総合評価	自己評価の結果と今後の課題及び改善策
C	毎週金曜日には地域に園庭を開放して、未就園児の遊び場を提供してきた。まだまだ周知する範囲が狭いのか、参加者が少なかったため、次年度は広く周知するようにしていきたい。 高校生との触れ合いは年間に数回あったが、小学校との関りは全くなかったため何らかのアプローチをして、関りが持てるようにしていきたい。

VI 研修と研究

総合評価	自己評価の結果と今後の課題及び改善策
C	職員数が足りず、研修会への参加が難しい月もあったが、なるべく職員の配置を考慮しながら多くの研修会・講演会・講習会へ参加できるようにしていきたい。 また、自己向上のためにスキルアップセミナーなどにも積極的に参加するようにしていきたい。

(注) 総合評価のAは「十分達成されている」 Bは「達成されている」 Cは「取組んだが成果が十分でない」
Dは「取組みが不十分である」で評価する (4)